

授業科目名： 保健体育科指導法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高木由起子・内田匡輔 担当形態： クラス分け・単独
実務内容 (実務家教員の場合)	高等学校保健体育科教諭としての経験を活かして、中学校および高等学校保健体育科教諭としての資質・能力を高めるとともに学習指導案の作成について指導する。		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）		
「学位授与の方針」との関係 DP2. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標 中学校、高等学校でより具体的で質の高い保健体育、または保健の授業を計画し、実施するために知識、技能の習得を第一とする。また、体育科教育の目標と内容を理解し、より良い授業づくりにつながるための指導方法の工夫について考えることを第二とする。 上記の2つの目標に到達しているかを、模擬授業や学習指導案を作成する過程から総合的に評価し、保健体育の授業遂行能力を身につけることが本授業のテーマである。			
授業の概要 本授業では「体育科教育に求められるもの」や「優れた授業」といった授業を実践する教員として理解しておくべき最低限の教養について理解を深め、学習成果が高まるための教材研究や開発を行う。また、高等学校段階で生徒が学ぶ内容を最低限理解し、教科書に書かれている内容をより深く学ぶためにも、クリティカル・シンキングを働かせ、複数の情報源から得た情報や科学的根拠に基づいた思考過程をレポートとして示してもらいたい。			
授業計画 第1回：運動の意味と価値。文化としてのスポーツ（体育理論の基礎を教科書に学ぶ） 第2回：スポーツの技術と戦術、トレーニング。そして生涯スポーツへ（体育・スポーツについて教科書から学ぶ） 第3回：現代社会と健康。健康の姿とその具体（保健理論の基礎を教科書に学ぶ） 第4回：生涯を通じ社会生活と健康について。（健康の保持増進の具体的なあり方を教科書に学ぶ） 第5回：新学習指導要領改定の背景と保健体育科の使命（学習指導要領に学ぶ） 第6回：体育科教育の目標と内容 第7回：授業に求められるもの 第8回：すぐれた授業とは 第9回：マネジメントの技術 第10回：保健体育のカリキュラムづくり 第11回：教材研究と指導案作成 第12回：模擬授業 第13回：評価と評価活動 第14回：体育授業指導方法の工夫（教材・教具） 第15回：体育授業指導方法の工夫（実技指導） 科目修得試験			
スクーリングでの学修 体育科教育の目標と内容を確認するとともに、良い授業づくりにつながるための指導方法の工夫を行う。具体的には、保健体育のカリキュラムづくりの確認や教材研究を行う。			
テキスト 『新高等保健体育「保体702」』大修館書店 9784469663204 岡出美則他（編著）（2021）『体育科教育学入門 三訂版』大修館書店 9784469269116			
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領（平成29年）解説 保健体育編』東山書房 (https://www.mext.go.jp/content/20210113-mxt_kyoiku01-100002608_1.pdf) 『高等学校学習指導要領（平成30年）解説 保健体育編 体育編』東山書房 (https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf)			
学生に対する評価 スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）			